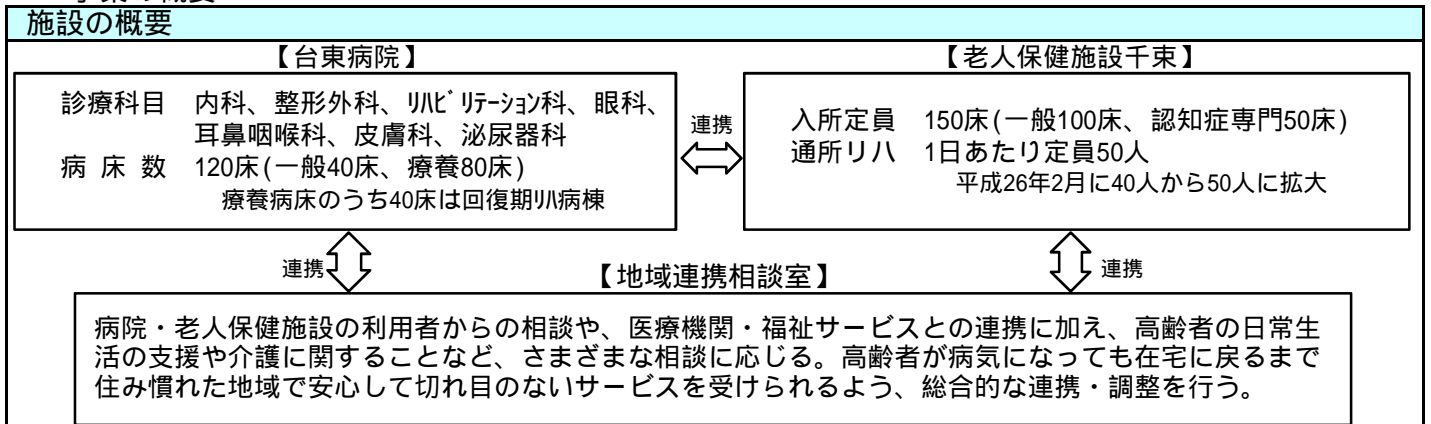


平成28年度 台東区立台東病院及び老人保健施設千束 運営評価表
(平成27年度実績の評価)

施設名	台東区立台東病院・老人保健施設千束
事業開始年度	平成21年度
開設者	台東区(病院所管課：健康部健康課、老健所管課：福祉部高齢福祉課)
指定管理者	公益社団法人地域医療振興協会
評価の目的	サービスの提供の効果等について、記録、測定又は分析し、一定の基準に照らして客観的に評価・検証することにより、業務・運営等を継続的に改善させる。
評価内容	新台東病院等整備基本計画に定める基本理念を的確に反映しているか。 基本協定書に基づき、保健・医療・福祉機能とその役割を適切に果たしているか。 地域に開かれた施設になっているか。
評価項目	役割・機能、効率性・経済性、計画性・改善状況等

1 事業の概要



施設の基本理念

高齢者が住み慣れた地域で療養できるよう、高齢者の慢性疾患に対応する病院と在宅復帰に必要な入所施設を一体的に確保します。

高齢者がいつまでも自分らしく、安心した在宅生活を送ることができるよう、保健・医療・福祉サービスを提供します。

高齢者が施設や在宅で必要な保健・医療・福祉サービスを円滑に利用できるよう、サービスの担い手との連携を積極的に推進します。

安心して子育てができるよう、医療の面から支援します。

快適な療養環境や質の高いサービスを効率的に提供します。

『運営の透明性』、『区民に対する説明責任』を確保し、上記の理念が適切に果たされていることを区民の視点に立って評価・検証します。

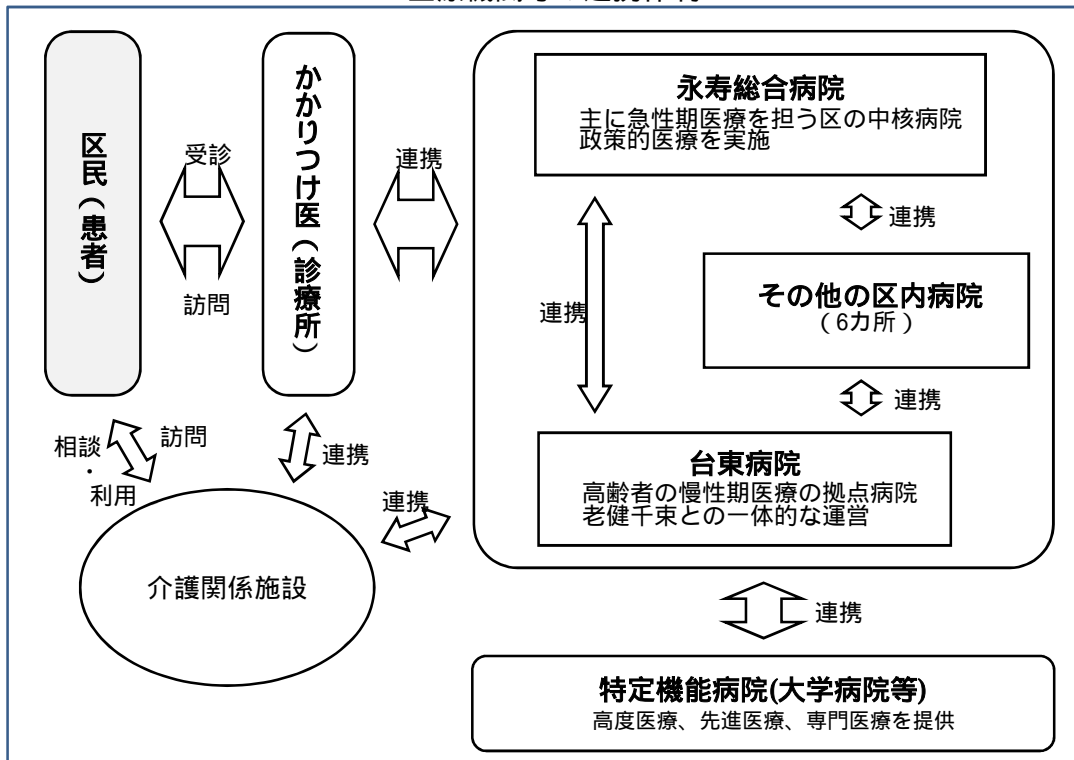
基本方針

台東病院	総合医を中心としたチームによる医療を提供します。 利用者本位で、満足度の高い医療を提供します。 関係機関との連携を推進し、安心して在宅生活を送れるよう、医療を提供します。 医療従事者の育成と資質の向上に努めます。 区の小児初期救急医療のしくみを補完します。 健全で安定的な経営基盤の確立を図ります。
老健千束	良質で包括的なサービスを提供します。 利用者の人格及び意思を尊重し、快適で質の高い療養・介護環境を提供します。 地域の福祉関連機関との連携のもと、円滑な在宅復帰を目指します。 病院に併設されていることの利点を最大限に活かします。 健全で安定的な経営基盤の確立を図ります。

2 指定管理者の運営理念等

運営理念
『ずっとこのまちで暮らし続けたい』を応援します
運営基本方針
高齢者医療に力をいれます 在宅医療を支援します まずは受け入れるという姿勢を持ちます 地域と連携してサービスを提供します 医療に恵まれない地域の支援を行います

< 医療機関等の連携体制 >



3 事業の現況とその推移

(1) 経営の状況

(1,000円未満を四捨五入、単位：千円)

区分		25年度	26年度	27年度	前年度比	主な計上科目	
台東病院	収益	医業収益	1,753,098	1,883,345	1,933,253	49,908	入院・外来収益等
		医業外収益	119,440	136,958	154,927	17,969	指定管理料、売店収益等
		合計	1,872,538	2,020,303	2,088,180	67,877	
		(うち指定管理料)	43,087	44,280	44,280	0	指定管理料
	費用	医業費用	1,806,478	1,952,628	2,042,329	89,701	給与費、材料費、委託費等
		医業外費用	69,327	69,381	68,447	934	売店運営費用
		合計	1,875,805	2,022,009	2,110,776	88,767	
	損益	医業損益	53,380	69,283	109,076	39,793	
		医業外損益	50,113	67,577	86,480	18,903	
合計		3,267	1,706	22,596	20,890		
老健千束	収益	事業収益	836,633	877,016	899,548	22,532	入所・通所リハ収益等
		事業外収益	4,446	4,974	5,190	216	駐車場利用料等
		合計	841,079	881,990	904,738	22,748	
		(うち指定管理料)	0	0	0	0	
	費用	事業費用	739,682	758,074	776,770	18,696	給与費、材料費、委託費等
		事業外費用	17,198	25,452	21,552	3,900	駐車場管理料等
		合計	756,880	783,526	798,322	14,796	
	損益	事業損益	96,951	118,942	122,778	3,836	
		事業外損益	12,752	20,478	16,362	4,116	
合計		84,199	98,464	106,416	7,952		
全体	収益	事業収益	2,589,731	2,760,361	2,832,801	72,440	
		事業外収益	123,886	141,932	160,117	18,185	
		合計	2,713,617	2,902,293	2,992,918	90,625	
		(うち指定管理料)	43,087	44,280	44,280	0	
	費用	事業費用	2,546,160	2,710,702	2,819,099	108,397	
		事業外費用	86,525	94,833	89,999	4,834	
		合計	2,632,685	2,805,535	2,909,098	103,563	
	損益	事業損益	43,571	49,659	13,702	35,957	
		事業外損益	37,361	47,099	70,118	23,019	
合計		80,932	96,758	83,820	12,938		

収支の概要

台東病院	<p>前年度と比べ、医業収益は約4,990万円(2.6%)増の19億3,325万3千円、医業費用は約8,970万円(4.6%)増の20億4,232万9千円で、医業損益は約3,979万円悪化し1億907万6千円の赤字となった。医業外収益は約1,796万円(13.1%)増の1億5,492万7千円(指定管理料4,428万円を含む)、医業外費用は横ばいの6,844万7千円で、医業外損益は約1,890万円増の8,648万円の黒字となった。この結果、台東病院全体の損益は約2,089万円悪化し2,259万6千円の赤字となった。</p>
老健千束	<p>前年度と比べ、事業収益は約2,253万円(2.6%)増の8億9,954万8千円、事業費用は約1,869万円(2.5%)増の7億7,677万円で、事業損益は約383万円増の1億2,277万8千円の黒字となった。事業外収益は横ばいの519万円、事業外費用は約390万円(15.3%)減の2,155万2千円で、事業外損益は約411万円改善したものの1,636万2千円の赤字となった。この結果、老健千束全体の損益は約795万円増の1億641万6千円の黒字となった。</p>

(2) 運営の状況

役割・機能
【台東病院】

区分		25年度	26年度	27年度	前年度比	備考
体制	職員数	131.3人	136.5人	145.8人	9.3人	年度末を基準とする 常勤医師以外は常勤換算人数 職員数合計は医師、看護・介 護職員、リハビリ職員の合算
	医師	19.3人	18.5人	18.8人	0.3人	
	常勤医師	12人	11人	12人	1人	
	非常勤医師	7.3人	7.5人	6.8人	0.7人	
	総合医(再掲)	12.3人	11.3人	12.4人	1.1人	
	看護・介護職員	87人	94人	100人	6人	
	リハビリ職員	25人	24人	27人	3人	
入院	病床利用率	86.8%	90.5%	93.6%	3.1%	病床利用率 = 入院延患者数 ÷ 延 病床数 × 100
	一般	84.8%	86.4%	90.2%	3.8%	
	回復期リハ	87.5%	92.6%	93.9%	1.3%	
	療養	88.0%	92.4%	96.7%	4.3%	
	延べ入院患者数	38,003人	39,626人	41,115人	1,489人	平成27年度に新たに入院された 患者数
	50歳代以下	10.9%	11.6%	12.5%	0.9%	
	60歳代	17.2%	14.4%	13.2%	1.2%	
	70歳代	26.2%	24.4%	20.5%	3.9%	
	80歳代	31.3%	33.2%	36.4%	3.2%	
	90歳代以上	14.4%	16.4%	17.4%	1.0%	
	新入院患者数	1,060人	1,091人	1,078人	13人	平成27年度に新たに入院された 患者数
	一般	877人	901人	891人	10人	
	回復期リハ	134人	143人	149人	6人	
	療養	49人	47人	38人	9人	
平均在院日数	36.0日	36.6日	38.1日	1.5日	延入院患者数 ÷ (新入院患者数 + 退院患者数) ÷ 2	
一般	16.0日	15.8日	17.0日	1.2日		
回復期リハ	69.2日	75.3日	69.3日	6.0日		
療養	132.5日	129.1日	137.5日	8.4日		
台東区民の占める割合	84.6%	83.1%	85.7%	2.6%		
回復期リハ棟の在宅復帰率	87.5%	82.7%	80.8%	1.9%	1年間分	
外来	延べ患者数	71,514人	76,557人	80,761人	4,204人	
	1日平均患者数	244.1人	261.3人	274.7人	13.4人	延べ患者数 ÷ 外来診療日数
	初診患者数	11,804人	13,243人	12,720人	523人	初診料を算定した患者数
	新患率	16.5%	17.3%	15.8%	1.5%	初診患者数 ÷ 延患者数 × 100
	台東区民の占める割合	83.1%	83.1%	88.2%	5.1%	
	初期救急患者数	665人	921人	960人	39人	
	救急車受入数	279人	344人	340人	4人	
来院患者数	386人	577人	620人	43人		

【老健千束】

区分		25年度	26年度	27年度	前年度比	備考
体制	職員数	78人	85人	82.8人	2.3人	年度末を基準とする 全て常勤換算人数
	医師	2人	2人	1.5人	0.5人	
	介護・看護職員	70人	75人	75.5人	0.5人	
	リハビリ職員	6人	8人	5.75人	2.25人	
入所	入所利用率	93.2%	95.2%	95.4%	0.2%	延入所者数 ÷ 延「ベッド」数 × 100
	1日あたり短期入所者数	6.8人	7.4人	8.3人	0.9人	延短期入所者数 ÷ 365日
	延べ入所者数	51,024人	52,095人	52,401人	306人	延べ入所者数は長期入所と短期 入所(ショートステイ)の合算
	60歳代以下	3.5%	3.7%	3.0%	0.7%	
	70歳代	13.9%	10.8%	6.6%	4.2%	
	80歳代	39.6%	38.3%	44.1%	5.8%	
	90歳代以上	43.0%	47.2%	46.3%	0.9%	
	平均在所日数	349.5日	366.1日	316.3日	49.8日	入所延べ日数 ÷ {(新規入所者数+退 所者数) ÷ 2} 1年間分
	回転率	8.7%	8.3%	9.6%	1.3%	月間平均暦日数 ÷ 平均在所日数 × 100
	台東区民の占める割合	99.9%	99.9%	99.9%	0%	
在宅復帰率	28.0%	34.1%	45.7%	11.6%	退所先が自宅やグループホーム等の割合	
通所	1日あたりの利用者数	37.3人	40.3人	42.3人	2.0人	延利用者数 ÷ 通所営業日数
	台東区民の占める割合	100.0%	100.0%	100.0%	0%	

【連携等】

区分		25年度	26年度	27年度	前年度比	備考	
地域連携相談室	職員数	10.0人	9.0人	8.0人	1人	全て常勤換算人数	
	社会福祉士	4.0人	3.0人	2.0人	1人		
	支援相談員	2.0人	2.0人	2.0人	0人		
	介護支援専門員	2.0人	2.0人	2.0人	0人		
	事務員	2.0人	2.0人	2.0人	0人		
	相談件数	1,760件	1,729件	1,703件	26件	主たる内容により区分	
	入院（一般）	1,015件	953件	953件	0件		
	入院（回復期リハ）	273件	304件	302件	2件		
	入院（療養）	144件	146件	142件	4件		
	入所	215件	215件	199件	16件		
通所	113件	111件	107件	4件			
紹介	入院患者	479人	544人	537人	7人	検査依頼を除く、医師の紹介状(診療情報提供書)を持参した患者数 紹介率 = (紹介状持参患者数 + 救急患者数) ÷ 初診料算定患者数(救急車受入数を除く) = 19.3%	
	一般	313人	362人	366人	4人		
	回復期リハ	129人	139人	138人	1人		
	療養	37人	43人	33人	10人		
	診療所からの紹介(再掲)	152人	167人	181人	14人		
	外来患者	918人	952人	888人	64人		
	病院から	447人	476人	438人	38人		
診療所から	434人	434人	417人	17人			
施設から	37人	42人	33人	9人			
逆紹介	入院患者	371人	376人	407人	31人		診療情報提供料を算定した患者数(返送患者を含む) 逆紹介率 = 診療情報提供料算定患者数 ÷ 初診料算定患者数(救急車受入数を除く) = 12.6%
	一般	181人	186人	217人	31人		
	回復期リハ	138人	138人	132人	6人		
	療養	52人	52人	58人	6人		
	診療所への逆紹介(再掲)	151人	164人	189人	25人		
	外来患者	1,112人	1,279人	1,156人	123人		
	病院へ	805人	919人	873人	46人		
	診療所へ	157人	227人	162人	65人		
施設へ	7人	14人	5人	9人			
宛名なし等	143人	119人	116人	3人			
返送	入院患者	138人	136人	159人	23人	診療情報提供書を持参した患者のうち、入院後、紹介元医療機関等に返送(診療情報提供料を算定)した患者数	
	一般	65人	71人	88人	17人		
	回復期リハ	52人	51人	53人	2人		
	療養	21人	14人	18人	4人		
	診療所への返送(再掲)	82人	81人	101人	20人		
入退院患者・入退所者の経路	新入院患者	自宅から	54.7%	50.1%	50.2%	0.1%	新入院患者の総数は、 25年度1,058人、26年度1,091人、27年度1,078人
		診療所からの紹介	14.4%	15.3%	16.8%	1.5%	
		他病院からの紹介	21.3%	23.2%	23.6%	0.4%	
		福祉施設等から	6.1%	7.2%	5.0%	2.2%	
		老健千束から	3.5%	4.1%	4.4%	0.3%	
	退院患者	自宅へ	51.8%	49.0%	45.4%	3.6%	退院患者の総数は、 25年度1,049人、26年度1,076人、27年度1,084人
		診療所への逆紹介	14.4%	15.2%	17.8%	2.6%	
		他病院への転院	6.5%	7.0%	7.1%	0.1%	
		他病院の外来への紹介	5.1%	5.6%	5.6%	0.0%	
		福祉施設等へ	5.5%	7.2%	7.1%	0.1%	
		老健千束へ	5.1%	5.9%	7.9%	2.0%	
	看取り	11.6%	10.2%	9.1%	1.1%		
	新入所者	自宅から	37.7%	34.0%	35.7%	1.7%	新入所者の総数は、 25年度151人、26年度162人、27年度168人
		福祉施設等から	3.5%	4.3%	3.6%	0.7%	
		台東病院から	30.5%	39.8%	45.8%	6.0%	
他の病院から		27.3%	22.8%	14.9%	7.9%		
退所者	自宅へ	29.7%	21.5%	37.7%	16.2%	退所者の総数は、 25年度148人、26年度163人、27年度167人	
	福祉施設等へ	20.9%	30.7%	22.7%	8.0%		
	台東病院へ	25.7%	27.6%	20.4%	7.2%		
	他の病院へ	6.8%	7.9%	5.4%	2.5%		
看取り	16.9%	12.3%	13.8%	1.5%			
緊急一時病床利用者数		154人	190人	185人	5人	うち在宅療養患者の受入は91人	
退院前カンファレンス件数		140件	95件	84件	11件	多職種による検討会の実施件数	
訪問リハビリテーション延利用者数		1,598人	2,353人	2,480件	127件	平成23年2月より実施	

経営分析

区分		25年度	26年度	27年度	前年度比	備考	
台東病院	経常収支比率	99.8%	99.9%	98.9%	1.0%	総収益 ÷ 総費用 × 100	
	総費用に対する指定管理料比率	2.3%	2.2%	2.1%	0.1%	指定管理料 ÷ 総費用 × 100	
	医業収益に対する職員給与費比率	70.3%	69.9%	71.6%	1.7%	職員給与費 ÷ 医業収益 × 100	
	医業収益に対する委託費比率	6.6%	6.8%	5.6%	1.2%	委託費 ÷ 医業収益 × 100	
	医業収益に対する材料費比率	13.1%	12.6%	14.1%	1.5%	材料費 ÷ 医業収益 × 100	
	病床利用率	86.8%	90.5%	93.6%	3.1%	入院延患者数 ÷ 延病床数 × 100	
	1日外来患者数	244.1人	261.3人	274.7人	13.4人	延患者数 ÷ 外来診療日数	
	入院患者1人1日あたり診療収入	30,123円	30,167円	29,991円	176円	入院収益 ÷ 入院延患者数	
	外来患者1人1日あたり診療収入	6,341円	6,715円	6,555円	160円	外来収益 ÷ 外来延患者数	
	医師1人1日あたり診療収入	234,559円	252,260円	272,032円	19,772円	(入院収益 + 外来収益) ÷ 年延医師数(看護・介護職員数)	
	看護・介護職員1人1日あたり診療収入	47,010円	48,220円	51,448円	3,228円		
	CT	稼働率	62.3%	74.6%	76.5%	1.9%	稼働率 = 検査件数 ÷ (1日あたり検査可能件数(12件) × 外来診療日数) × 100
		検査件数	2,199件	2,624件	2,698件	74件	
		うち検査依頼受付件数	103件	148件	252件	104件	
MRI	稼働率	58.5%	64.3%	65.4%	1.1%		
	検査件数	2,065件	2,260件	2,307件	47件		
	うち検査依頼受付件数	174件	202件	241件	39件		
老健千束	事業収支比率	111.1%	112.6%	113.3%	0.7%	総収益 ÷ 総費用 × 100	
	総費用に対する指定管理料比率	0%	0%	0%	0%	指定管理料 ÷ 総費用 × 100	
	事業収益に対する職員給与費比率	55.3%	51.9%	53.2%	1.3%	職員給与費 ÷ 事業収益 × 100	
	事業収益に対する委託費比率	17.2%	17.7%	13.0%	4.7%	委託費 ÷ 事業収益 × 100	
	入所利用率	93.2%	95.2%	95.4%	0.2%	入所延患者数 ÷ 延ベッド数 × 100	
	1日通所利用者数	37.3人	40.3人	42.3人	2.0人	延利用者数 ÷ 通所運営日数	
	入所者1人1日あたり事業収益	13,360円	14,468円	14,427円	41円	入所収益 ÷ 入所延患者数	
	通所者1人1日あたり事業収益	10,802円	10,862円	10,863円	1円	通所収益 ÷ 通所延患者数	

計画性・改善状況等

区分		25年度	26年度	27年度	前年度比	備考
講演会開催数		7件	17件	17件	0件	街かど健康教室、在宅ケア教室
その他区民向けイベント開催数		14件	18件	12件	6件	ミニコンサート、看護の日イベント
投書件数		46件	36件	58件	22件	
	謝意	10件	3件	23件	20件	
	助言	24件	11件	13件	2件	
	苦情	12件	22件	22件	0件	

主な意見と対応

【謝意】 老健に入所している母と上野動物園への遠足会に参加し、母との楽しい時間を過ごすことができ、また、他の介護家族とも悩みを共有することができ、企画してくれた方々に感謝している。

5階の療養病棟に入院している母の病室に折り紙のお雛様が飾ってあり、心がほっとするとともに、スタッフのきめ細やかな心配りに感謝している。

母の介護で精神的体力的に弱っていたところ、地域連携相談室や老健のスタッフから『親御さんの介護は私たちに任せてあなたは体を治しなさい』と励まされ、本当に助かった。

【助言】 トイレやエアコン(フィルター)の清掃を小まめに行ってほしい。

速やかに該当箇所の確認・清掃を行うとともに、清掃業務の見直しを行った。

【苦情】 スタッフによる案内等がなく長時間待たされた。

受付スタッフや問診をとる看護師が待ち時間のご案内を確実に行うよう徹底した。

入院食が美味しくないので、もう少しメニューを考えてほしい。

食材料費等を調査するとともに、管理栄養士によるメニューの検討を行った。

その他

居宅介護支援事業所千束(自主事業)

関係機関と連携しながら、『治療から介護へ』、『施設ケアから在宅ケアへ』とサービスを提供する上で、より迅速に質の高いサービスを提供するため、平成23年12月より居宅支援事業の運営を開始した。

ケアマネジャー(介護支援専門員)1名を常勤配置しており、平成27年度末現在の登録者数は前年度同様の35名である。登録者の内訳は、要介護度1が15名、要介護度2が12名、要介護度3が3名、要介護度4が2名、要介護度5が3名で、主な業務内容は、登録者や家族との面談、ケアプランの作成、サービス事業者の紹介・調整等である。

4 評価

【評価の段階】

A	目的・要求等を十分に満たしている状態
B	目的・要求等を概ね満たしている状態
C	目的・要求等に対し補う必要がある状態

(1) 役割・機能の評価

台東病院が慢性期医療を担う拠点病院として機能しているか		医療連携については別途評価
【参考指標】入院患者、外来患者の実績(P4)など		
事業者 評価 A	根拠	前年度と比べ、病床利用率は各病棟ともに上昇し、全体では3.1ポイント上昇の93.6%、外来延患者数は4,204人(5.5%)増の80,761人、初期救急患者数は39人(4.2%)増の960人で、入院患者の7割強は70歳以上となった。 認知症の有無、緩和ケア・リハビリテーションの必要性など、入院患者の病態に応じ、医師、看護師、介護士、社会福祉士、リハビリスタッフ等が、患者のもとを訪問し病態の把握や相談への対応を行うなど、高齢者の拠点病院として機能していたと認識している。
協議会 評価 A	根拠	入院部門については、病床利用率が上昇し全病棟とも90%を超えており、新入院患者数及び回復期リハ病棟の在宅復帰率も堅調に推移している。外来部門については、1日平均患者数が着実に増加しており、台東区民の患者の割合も上昇している。 また、複合疾患を持つ認知症高齢者やがんの末期患者など、対応が難しい患者も柔軟に受け入れており、慢性期医療を担う拠点病院として機能していると評価できる。

老人保健施設千束が在宅復帰に向けた入所施設として機能しているか		地域との連携については別途評価
【参考指標】入所者の実績(P4)など		
事業者 評価 A	根拠	前年度と比べ、入所利用率は0.2ポイント上昇の95.4%、在宅復帰率は11.6ポイント上昇の45.7%(目標値30%)、平均在所日数は約50日短縮の316.3日となった。 退所にあたっては、看護師や社会福祉士、介護支援相談員が中心となって、家族や関係機関と連携をとりながら退所支援を行うなど、在宅復帰に向けた施設として機能していたと認識している。
協議会 評価 A	根拠	入所利用率及び1日あたりの短期入所者数は堅調であり、平均在院日数及び回転率も改善している。また、相談員やケアマネ等が、入所者や家族に対しいくつかの選択肢を提示しながら丁寧な説明を行うなど、スタッフが一丸となって退所支援の充実を図ったことにより、在宅復帰率は目標を大きく上回る結果となっていることから、在宅復帰に向けた施設として機能していると評価できる。

医療機関等との連携は適切に行われているか	
【参考指標】医療連携の実績(P5)など	
事業者 評価 B	根拠
協議会 評価 B	根拠

前年度と比べ、逆紹介した入院患者数は31人(8.2%)増の407人、返送した入院患者数は23人(16.9%)増の159人であったものの、紹介された外来患者数は64人(6.7%)減の888人、逆紹介した外来患者数は123人(9.6%)減の1,156人、緊急一時病床利用者数は横ばいの185人となっており、さらに医療機関等との連携を推進する必要があると認識している。

他の医療機関から台東病院に紹介された患者は入院部門及び外来部門ともに減少しており、台東病院から他の医療機関に逆紹介した外来患者も減少している。
また、多職種による退院前カンファレンス件数の減少は、病棟における退院支援担当看護師1名の配置など、カンファレンス形式によらない退院支援の充実によるものであるが、より一層、地域の医療機関等との顔の見える連携を推進していく必要がある。

台東病院と老人保健施設千束が連携しながら、互いの機能を効果的に発揮しているか	
【参考指標】入退所経路の実績(P5)など	
事業者 評価 A	根拠 前年度と比べ、入院患者・入所者の施設間の移動は、老健千束から台東病院へは11人(24.4%)減の34人であったものの、台東病院から老健千束へは23人(36.5%)増の86人となっており、病院と老健がお互いの機能を補完しながら、複合施設の利点、互いの機能を活かした安心感のあるサービスを提供できたと認識している。
協議会 評価 A	根拠 老健千束において、看護・介護機能の向上に取り組み、これまで受け入れが困難であった、点滴等が必要な医療依存度が高い方をできる限り受け入れるなど、台東病院と老健千束のベッドを柔軟に運用しながら、高齢者の慢性期疾患への対応と在宅復帰に向けた支援を一体的に実施しており、互いの機能を効果的に発揮していると評価できる。

退院・退所後も、家族等の支援や在宅でのリハビリテーションの支援等により、在宅生活を支援しているか	
【参考指標】通所リハビリテーションの実績(P4)、訪問リハビリテーション延利用者数の実績(P5)など	
事業者 評価 A	根拠 前年度と比べ、訪問リハビリ延利用者数は127人(5.4%)増の2,480人、1日あたりの通所リハビリ利用者数は2.0人(5.0%)増の42.3人となった。また、職員が状況に応じて退院退所者の住居を訪問し、調査・アドバイス等を行いながら円滑な在宅復帰に繋げるとともに、『街かど健康教室』・『知って得する！在宅ケア教室』を定期的で開催し、在宅で介護を行っている方の相談に対応するなど、適切に在宅生活の支援ができたと認識している。
協議会 評価 A	根拠 訪問リハビリテーションの延べ利用者数は、台東病院の退院患者を中心に着実に増加しており、通所リハビリテーションの1日あたりの利用者数も、リハビリスタッフの安定的な確保等により、堅調に推移している。 また、退院患者・退所者の自宅訪問や介護家族への情報提供・相談対応なども計画的に実施しており、退院・退所後も在宅生活を支援していると評価できる。

【その他】適切な機能水準が満たされているか	
平成26年2月に日本医療機能評価機構の病院機能評価(一般病院1)を受審し、平成26年5月2日に認定を取得した。評価項目ごと、機能や業務水準について評価するとともに見直しを行っている。	

(2) 効率性・経済性の評価

台東病院の施設・機器等を効率的に活用しているか	
【参考指標】経営分析結果(P6)など	
事業者 評価 B	根拠 施設については、前年度と比べ、病床利用率が3.1ポイント上昇の93.6%、1日あたりの外来患者数が13.4人増の274.7人となっており、効率的に活用することができた。 一方、機器については、高額医療検査機器であるCT・MRIは、ともに検査件数は増加しているものの、今後も稼働率を維持・改善していく必要があるなど、一部の医療機器を効率的に活用できておらず、課題が残っていると認識している。
協議会 評価 B	根拠 施設については、入院患者や外来患者等の実績が堅調であり、効率的に活用することができていると評価できる。 一方、機器については、高額医療機器であるCT・MRIや一部の手術用機器等において、運用状況の維持・改善が期待されることから、地域の医療機関等との連携強化や診療機能の向上などにより、より一層、医療機器の効率的な活用に努める必要がある。

老人保健施設千束の施設等を効率的に活用しているか	
【参考指標】経営分析結果(P6)など	
事業者 評価 A	根拠 前年度と比べ、入所利用率は0.2ポイント上昇の95.4%、1日あたりの短期入所者数は0.9人増の8.3人、1日あたりの通所リハビリ利用者数は2.0人増の42.3人となった。 また、回転率は1.3ポイント上昇の9.6%となるなど、より多くの利用者に対し、屋上リハビリ庭園やエントランスホール等を活用しながら、快適な療養環境の提供を図っており、施設等を効率的に活用できたと認識している。
協議会 評価 A	根拠 入所者や通所リハビリ利用者の実績は堅調であり、回転率も退所支援の充実等により上昇している。また、共用スペースでの多様なリハビリテーションの他、看護・介護機能の向上による医療依存度の高い方の受入れや、入所者や家族への支援等による看取り介護も実施するなど、多角的な運用を行っており、施設を効率的に活用していると評価できる。

台東病院の事業運営の効率性は発揮されているか		医業外収支は評価対象外
【参考指標】収支(P3)、経営分析結果(P6)など		
事業者 評価 B	根拠 前年度と比べ、医業収益は2.6%増加したものの、医業費用も人員増等に伴い4.6%増加した。また、費用部門においては、委託費比率は1.2ポイント低下の5.6%となったものの、職員給与費比率1.7ポイント増加の71.6%、材料費比率は1.5ポイント増加の14.1%となるなど、予算作成時の収益適正比率(収益と支出のバランス)を確保することができず、収益・費用管理において課題が残っていると認識している。	
協議会 評価 B	根拠 病床利用率の上昇や外来患者数の増加等に伴い収益は増加しているものの、給与費や材料費の増加等に伴い費用も増加しており、事業損益は赤字となっている。 また、職員給与費比率も上昇しており、引き続き、費用管理を徹底しながら収益の増加に取り組み、運営の効率化を図る必要がある。	

老人保健施設千束の事業運営の効率性は発揮されているか		事業外収支は評価対象外
【参考指標】収支(P3)、経営分析結果(P6)など		
事業者 評価 A	根拠 前年度と比べ、人件費の増加等に伴い事業費用は2.5%増加したものの、事業収益も2.6%増加し、事業損益は約383万円増加の1億2,277万8千円の黒字となった。利用者の安定的な確保や職員給与費比率等の精査など、引き続き取り組むべきことはあるものの、老健全体としては、概ね効率性は発揮されていたと認識している。	
協議会 評価 A	根拠 給与費の増加等に伴い費用は増加しているものの、入所利用率の上昇や通所利用者の増加等に伴い収益も増加しており、事業損益は黒字で堅調に推移している。 また、職員給与費比率も概ね適正であるなど、経営状況は良好であることから、効率的な運営が行われていると評価できる。	

(3) 計画性・改善状況等の評価

前年度の運営協議会の意見を台東病院・老人保健施設千束の運営に活かしているか	
【参考指標】平成26年度評価表(別紙)など	
事業者 評価 A	根拠 前年度の運営協議会であがった、『CT・MRIの共同利用の推進』、『人材の安定的な確保』、『整形外科の充実』、『公式ホームページの拡充』、『働きやすい環境作り』については、全てのスタッフに周知し、委員会等にて検討を行い、看護師・介護士などの職員配置の適正化など運営改善に取り組んできた。『CT・MRIの共同利用の推進』については、引き続き、地域の医療機関に対する広報活動等により、検査依頼受付件数の増加に努める必要があるものの、概ね全ての意見を運営に活かすことができたと認識している。
協議会 評価 A	根拠 人材の確保については、新人看護師の確保や給与費の管理などの課題はあるものの、職員の定着率は都内の平均的な水準を満たしている。 また、その他の課題についても、CT・MRIの検査依頼受付件数の増加や整形外科の外来患者数の増加など、継続的な取り組みによる一定の成果が表れており、運営協議会の意見を運営に活かしていると評価できる。

利用者や区民の意見を取り入れ、台東病院・老人保健施設千束の運営に活かしているか	
【参考指標】投書件数、主な意見と対応(P6)	
事業者 評価 A	根拠 地域連携相談室の患者相談窓口において、社会福祉士、介護支援相談員、事務員等が利用者の相談に対応しているほか、各部署においても責任者が対応を行っている。相談内容は患者満足度調査結果や意見箱の投書等とあわせ一括管理し、毎週の幹部会議や『皆さまのお声委員会』で改善を図っており、利用者の意見を運営に活かすことができたと認識している。
協議会 評価 A	根拠 定期的に開催している『皆さまのお声委員会』にて、患者相談窓口や各部門での相談内容や患者・利用者からの投書、患者満足度調査結果等について検討を行っている。 意見箱については、より多くの提案・助言を受けられるよう、投書用紙の設問の見直しなど、検討事項はあるものの、利用者の意見に基づき、清掃業務の強化や食事メニューの改善を行っており、利用者の意見を運営に活かしていると評価できる。

区立の病院・老人保健施設だからこそできる役割を果たしているか	
事業者 評価 A	根拠 台東病院では、『街かど健康教室』・『知って得する！在宅ケア教室』の開催、保健所健診キャンペーンへの看護師派遣、『看護の日イベント』の開催、区立中学校のインターンシップや研修会の実施、ボランティアの受け入れ、地域の夏祭り・運動会への参加・協力などを行っている。 また、老人保健施設千束でも、地域のこども会との交流や文化祭の開催などを実施しており、区立の施設としての役割を果たすことができたと認識している。
協議会 評価 A	根拠 台東病院では、区の保健医療施策への協力のほか、区民向けの健診や講演会等のイベントの開催、施設を利用した医師会や地域の方々との連携などを実施しており、年々、内容の充実が図られている。 また、老健千束においても、地域の幅広い世代の方々との交流できるような催しを積極的に実施しており、区立の施設だからこそできる役割を果たしていると評価できる。

計画性を持って、台東病院・老人保健施設千束を運営しているか	
事業者 評価 A	根拠 毎週の幹部会議や毎月の事業推進会議において、運営状況の確認や課題の検討を行ってきた。また、部門・部署毎では、設定した年間目標の達成に向け、進捗状況を管理しながら業務改善に取り組み、年度末の全部署が参加する報告会において評価・検証を行うなど、計画的に施設を運営することができたと認識している。
協議会 評価 A	根拠 部門ごとに、目標設定から進捗状況の管理、達成状況の検証までを一体的に取り組んでいる。多職種で構成する会議体・委員会においては、経営状況、サービスの質や機能などについて課題の検討を行い、改善を図っている。 また、定期的に区との連絡会を開催し、利用者実績や課題の進捗状況などについて、情報共有を行っており、計画性を持って施設を運営していると評価できる。

5 総合評価等

【総合評価】

台東病院については、病床利用率は各病棟ともに上昇し、安定的な水準を確保しており、新入院患者数、回復期リハ病棟の在宅復帰率及び外来患者数等も堅調に推移している。地域の医療機関等との顔の見える連携による紹介・逆紹介の推進や、一部の医療機器における運用状況の維持・改善などの課題はあるものの、退院支援担当看護師の配置による退院支援の充実や複合疾患を持つ認知症高齢者等の入院受入れなどに努めており、高齢者の慢性期医療を担う拠点病院として機能していると評価できる。

老健千束については、入所利用率は高い水準を維持しており、平均在院日数の短縮化により回転率も改善している。在宅復帰率も、スタッフ一丸となった退所支援の充実により上昇し、目標を大きく上回る結果となっている。また、医療依存度の高い方の受入れや看取り介護の実施など、多角的な運用を行っており、在宅復帰に向けた入所施設として機能していると評価できる。

収支については、台東病院の損益は給与費の増加等に伴い赤字である。一方、老健千束の損益は黒字で堅調に推移している。台東病院においては、引き続き、費用管理を徹底しながら収益の増加に取り組む必要があるものの、施設全体では損益は黒字となっており、経営状況は概ね良好であると認められる。

その他、退院患者・退所者の自宅訪問や介護家族への情報提供・相談対応などにより、在宅生活の支援を図るとともに、スタッフの確保・適正配置、皆さまのお声委員会等による業務改善、医師会や地域の方々との連携、入院患者等に対する嚙下外来の実施に取り組むなど、計画的な運営を行っている。

今後とも、高齢者が住み慣れた地域で安心して生活できるよう、利用者や運営協議会等の意見を活かしながら、区や地域の医療機関等と連携して、質の高い保健・医療・福祉サービスの提供を図ることが求められる。

【その他意見】

入院・入所されている方にとっては、食事が楽しみの1つでもある。メニューや味付け、見た目などを工夫し、患者・利用者が満足できる食事をできるかぎり提供してほしい。

スタッフの定着率を向上させるためには、積極的に情報を発信し、より一層、地域に開かれた施設となることが重要である。

悪天候の際に、訪問リハ等の利用者・スタッフの安全を確保できるよう、再度、対応方法の確認・検討を行ってほしい。